

尾張旭市地域公共交通会議

平成 3 1 年度（令和元年度） 地域間幹線系統確保維持計画に係る事業評価概要

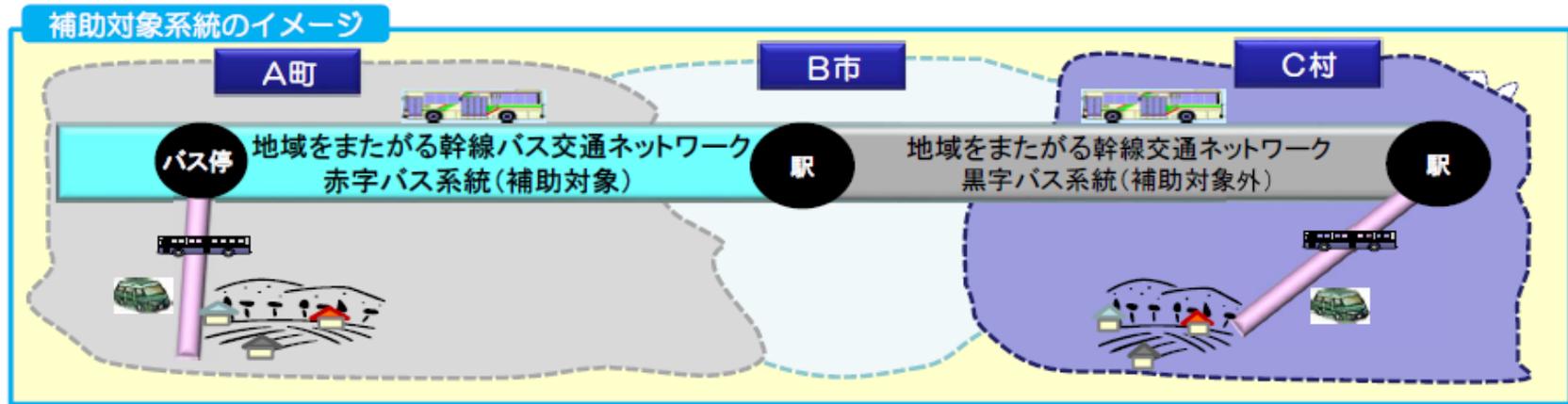
尾張旭市都市計画課

令和元年 1 2 月 2 0 日

1.地域公共交通確保維持事業

地域間幹線系統補助

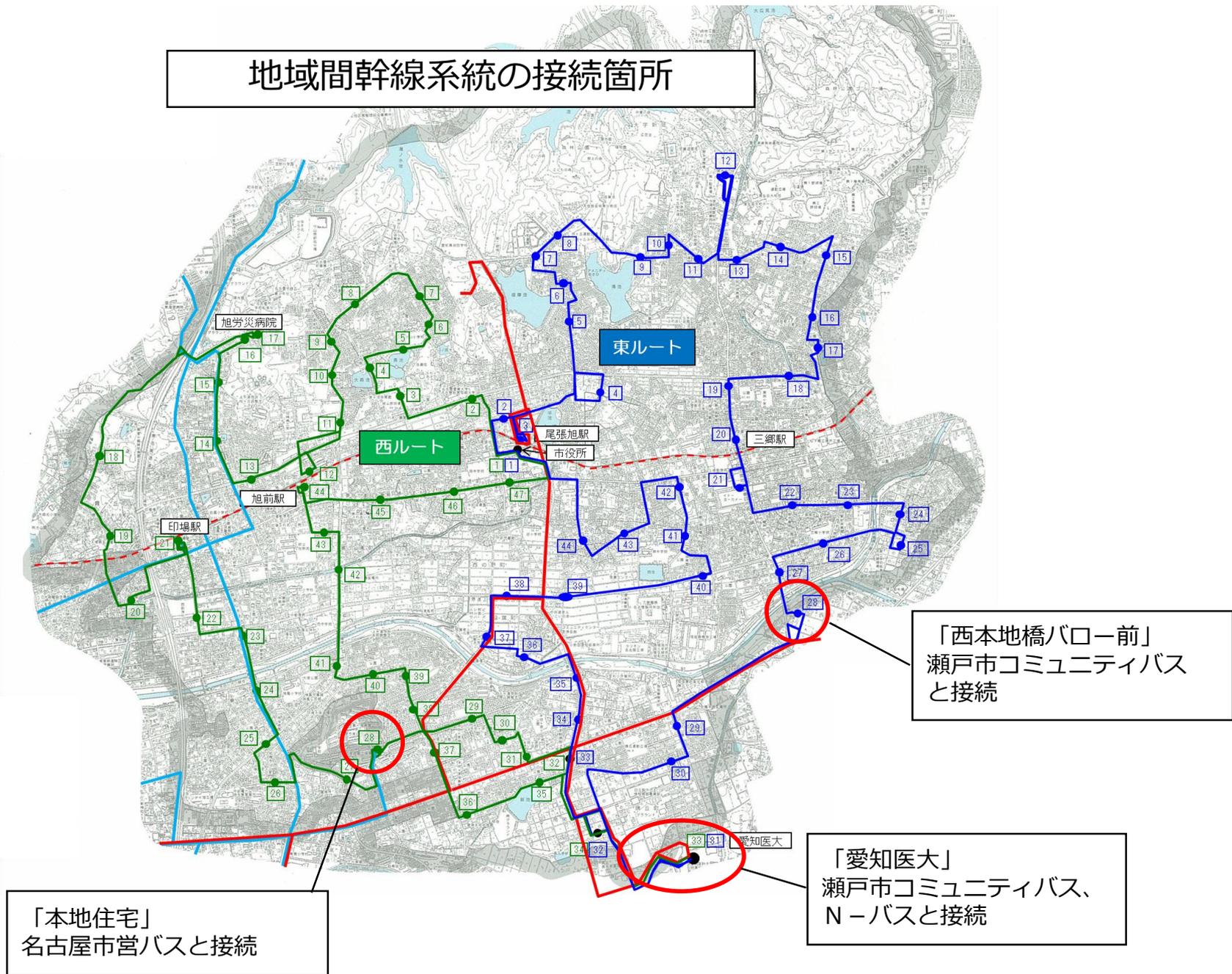
地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、地域間交通ネットワークを形成する地域間幹線系統の運行について支援。



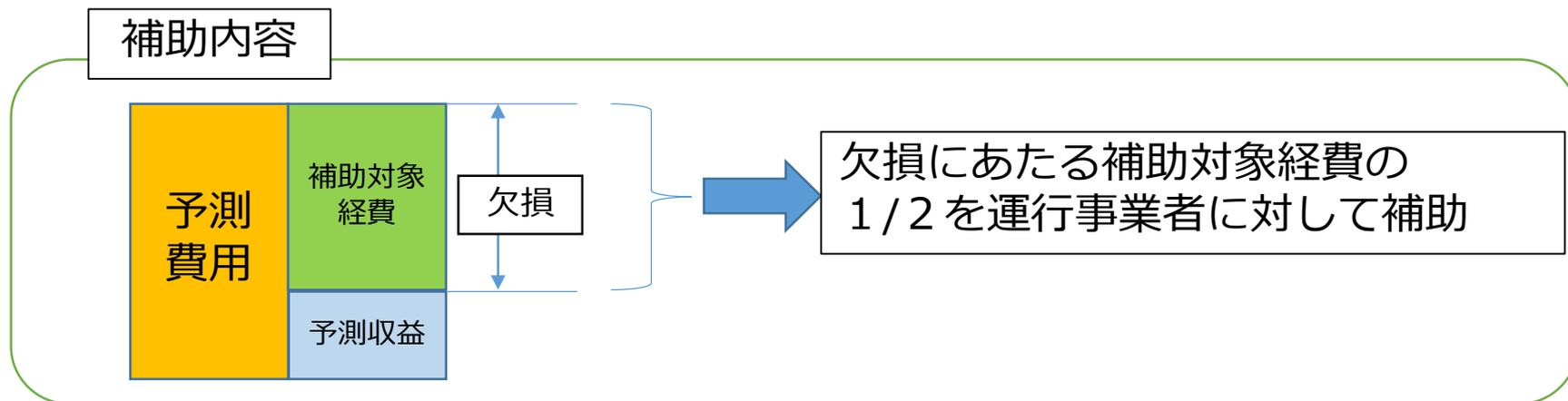
地域をまたがる交通ネットワーク
(A町→B市経由C村)

本市ではこの地域間幹線系統補助を受けて運行

地域間幹線系統の接続箇所



3.補助内容



地域間幹線系統確保維持計画において必要な運行系統として位置付け申出

(前々年12月頃)

生活交通確保計画作成 (目標や利用促進策、課題への対応)

(前年5月頃)

運行 (前年10月～当年9月)

期間終了後、事業評価 ◎

(当年12月頃)

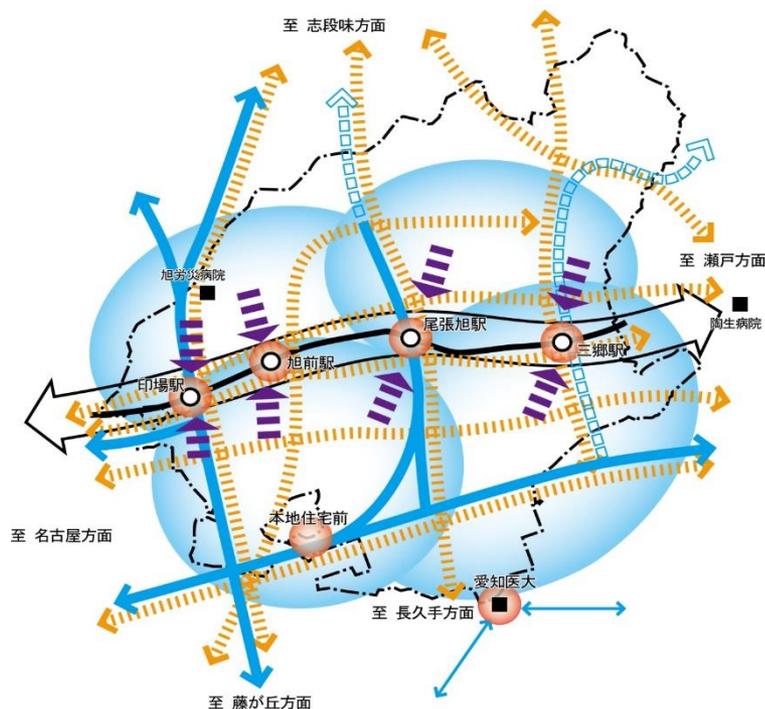
4.尾張旭市が目指す地域公共交通の姿 (Plan)

地域の特徴

- 広域路線として名鉄瀬戸線、基幹路線として名鉄バス及び名古屋市営バス、地域路線として尾張旭市営バスが運行。
- 平成25年7月に「尾張旭市交通基本計画」を策定。
- 市営バス利用者は60歳代以上で70%を超えており、買い物や通院の利用目的が多い。

尾張旭市交通基本計画

- 計画期間：平成25年度～令和7年度
- 基本理念：誰もが利用しやすく安全かつ円滑な持続可能なまちづくりにつながる交通体系の構築
- 目標年における交通体系イメージ



凡 例	
	広域路線
	自動車・自転車ネットワーク
	駅アクセス軸 (自転車・歩行者)
	基幹路線 (既存路線)
	基幹路線 (構想路線)
	地域路線
	交通結節点
	他市運行路線

※「基幹路線 (構想路線)」については、市の要望路線として今後の個別協議により整備する路線として位置付けています。

5.計画の達成状況の評価に関する事項 (Plan)

○補助系統事業評価 (尾張旭市営バス)

(1) 年間利用者数及び収入改善率の目標設定 (補助年度：前年10月～9月)

		H 3 1 (H30.10～R1.9)	R 2 (R 1.10～R 2.9)
東ルート	利用者数	109,000人	109,000人
	収支改善率	1.0%	1.0%
西ルート	利用者数	123,000人	128,000人
	収支改善率	1.0%	1.0%

今回評価

来年度評価

(2) 目標設定の考え方

生活交通確保計画策定時期 (例年：前年5月頃) に目標設定

- 年間利用者数

H 3 1 : H29.4～H30.3の実績 (東：108,564人、西：121,285人) を踏まえ目標設定

R 2 : H30.4～H31.3の実績 (東：108,861人、西：127,235人) を踏まえ目標設定

- 収支改善率

上記年間利用者数の目標を達成した場合に見込まれる収支率とH29補助年度実績値 (生活確保計画策定時) の差から算出し目標設定。

○ 平成31年補助年度の課題への取り組み

(1) 休日における遅延運行

前補助年度に実施した遅延調査結果をもとに
新たなダイヤの検討

(2) H28運行見直し以降の利用者要望

停留所の新設等の実現可能な要望について対応検討

(3) 継続的な利用促進活動の推進

尾張旭市の各種イベント（あさひ健康フェスタ、尾張旭駅前にぎわいフェスタ等）に
バス事業者が参加し、市営バスのPR実施

○ 利用者ニーズの把握

- ・ バス利用者へアンケート調査実施
- ・ 利用者懇談会の実施

○ その他

- ・ バスデータのG T F S化によるGoogleマップでの経路・ダイヤ検索対応
- ・ ルートマップを転入者用パンフレット同封し配布（市民課で配布）
- ・ 市内の商業施設及び病院にルートマップを設置し配布



令和元年10月1日
運行計画変更
・ 休日ダイヤ改正
・ 東西ルート各1か所
ずつ停留所新設



7.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

○ 平成31補助年度（H30.10～R1.9）年間利用者数

ルート	目標値	実績値	達成状況
東ルート	109,000人	112,409人	達成
西ルート	123,000人	130,862人	達成

○ 平成31補助年度収支改善率

ルート	目標値	実績値	達成状況
東ルート	+1.0%	-0.7% (21.8%→21.1%)	未達成
西ルート	+1.0%	-0.7% (21.7%→21.0%)	未達成

○ 目標達成状況についての考察

前年度実績比較で東ルート **4,572人、4.2%** 西ルート **6,467人、5.2%**の増加

しかし、利用者の増加人数のうち無料利用者の増加割合が大きかったことや車両の修繕費が例年より増加
⇒利用者は増加したものの収支率は悪化する結果に

○ 市をまたぐ利用状況（乗降人数）

	愛知医大	本地住宅	西本地橋バ口一前
H31	37,963人	11,562人	4,692人
H30	37,916人	11,401人	3,461人
増減	47人	161人	1,231人

※ 愛知医大は東西ルート合算の乗降人数

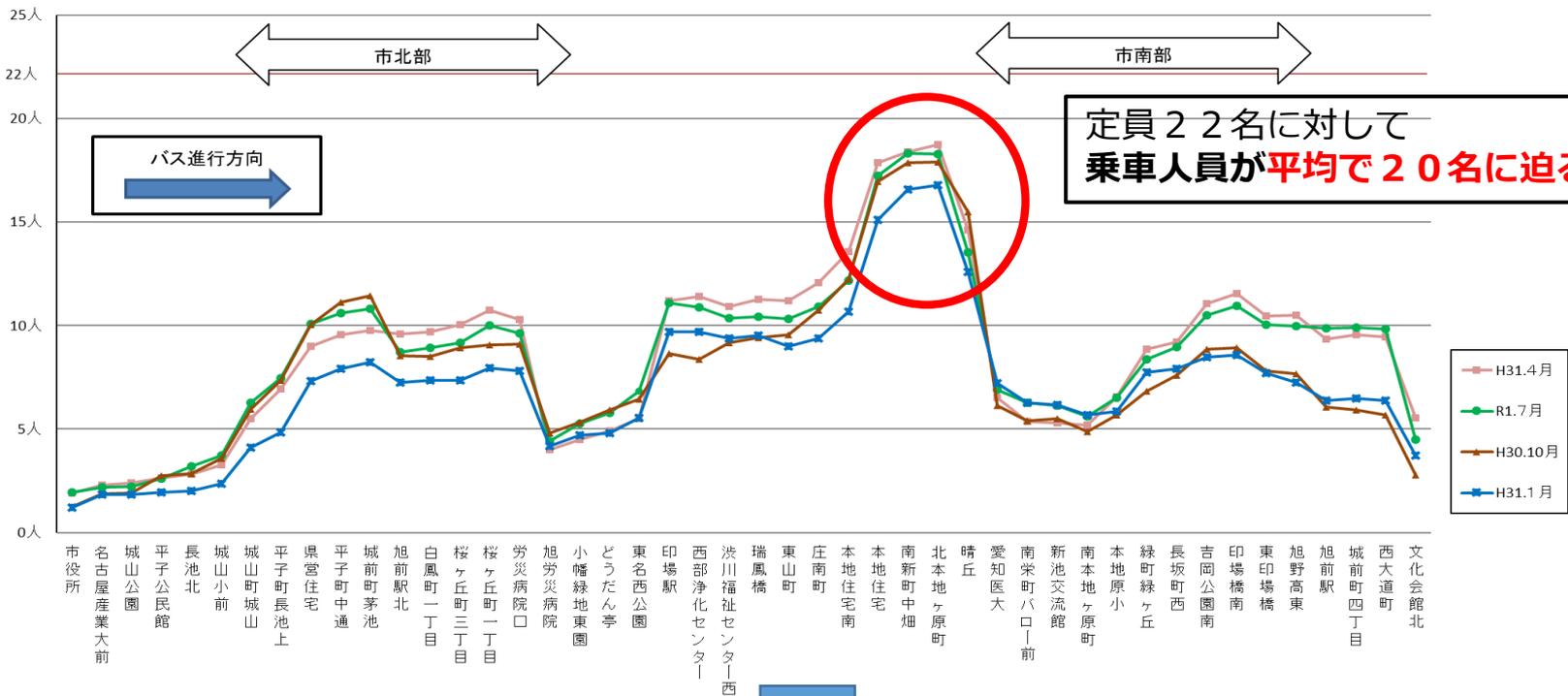
自己評価から得られた課題と対応方針

乗りこぼし発生の可能性

利用者は年々増加しており、特に午前の早い時間帯の便で利用者が多い状況

バリアフリー適用除外認定を受け着座を原則として運行⇒**乗りこぼし発生の可能性**

平日第1便の乗車人員 (西ルート左回り)



乗りこぼしの状況を分析しつつ、**利用状況に応じた運行計画** (ダイヤの改正等) を検討していく

9.アピールポイント

あさぴー号の利用促進に向けて以下の取組を実施

○ 利用者懇談会

利用者からの市営バスあさぴー号についての要望等を把握するため懇談会を開催

平日の遅延解消、待合環境の改善といった一部の意見については、令和元年10月1日改正内容等に反映させることができた。（平日ダイヤの微修正により対応）



○ 回数券販売箇所の拡大

イトーヨーカドーにおいて令和元年9月より回数券の販売を開始
東ルートで特に利用の多い停留所であるため、販売場所として浸透すれば多くの販売が見込まれる。

	市役所	旭労災病院	アスカ	フィール三郷店	イトーヨーカドー
9月	59冊	22冊	34冊	7冊	14冊
10月	66冊	20冊	25冊	3冊	22冊